

## パネルディスカッション：第1部

### 〔コーディネーター〕

樋口 恵子：高齢社会NGO連携協議会代表、(N)高齢社会をよくする女性の会理事長

### 〔パネリスト〕

「高齢社会対策の現状と課題」

小林 洋子：内閣府高齢社会対策担当参事官

「シニアの元気はまちの財産」

奥山 恵美子：仙台市長

樋口：それでは午後の部、体操で体がほぐれたところで、頭もほぐれたと思っております。これからたまたま登壇者が何と、内閣府の参事官と仙台市長とコーディネーターの私と全員女性でございます。これもまた時代の変化ですよ。ですから男だけであなた、この世の中回すなんて思っている高齢者の男性がいらっしゃいましたら、今日の光景を見てどうぞ、潔く諦めていただきたい。それもまた新しい時代認識の1つと思いますが、どうぞご安心くださいませ。後半のパネルディスカッション第2部は、登場人物もコーディネーターも全員男性でございます。

まあなんだか、よくはつきり分けられたなと思うんですけど、このとおり、男女共同参画でやってまいりたいと思いますので、パネリストをご紹介します。

1人は内閣府高齢者担当の参事官である小林洋子さんでございます（拍手）。今日、皆様のお手元にありますエイジレス・ライフの表章者の小冊子、といっても結構分厚い小冊子でございますけれど、その小冊子の「発刊にあたって」ということを書いていらっしゃるのが小林洋子さんでございます。なかなか名文と存じます。

そして皆様ご存じの仙台市長奥山恵美子さんでございます（拍手）。

昨年、市長として初当選なさいまして、今、行政官というのはどうしても八方美人になると。市長としてはもう少し政策をしっかりと出していく、明確にしていく必要もあるのではないかなどというご感想をもらされていらっしゃいました。これからの市長の正念場、2年



目からだとお思います。でも概して評判いいようですね、皆様ね。

ではまず20分ぐらいずつ、まず国の政策、皆様のお手元に平成21年度高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況、要するに約めていけば、高齢社会白書概要というのが、今日ここにご参集くださいました方には全員もれなく配布してございます。国も予算っていうのがありまして、これはなかなか配布できないんですよ。こういう会にいらした方には特別にお配りいたしておりますから、これにのっかってまず参事官のほうから、国のこの直近の高齢社会対策というものをご説明いただきたいと思います。そのあとで市長さんから、仙台市における取り組みをお話しいただきたいとお思います。では小林参事官、どうぞ。

小林：皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました内閣府で高齢社会対策を担当しております参事官の小林と申します。よろしくお願ひします。今日、この会合の始まる前に活動紹介コーナー、1階上がったところの活動コーナーを見させていただいて、皆様のパワーをたっぷり感じまして、今日はちょっとそのパワーに負けないように頑張りたいとお思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは高齢社会白書の冊子に基づいてご説明を申し上げます。NHKの番組でも『無縁社会』というのが取り上げられておまして、近いうちにNHKで第2弾ということでテーマになるというふうに聞いております。また、高齢の方の行方不明問題とかもございましたし、そのような社会状況の中で、今年の白書のテーマは「孤立からつ



ながり、支え合い」ということでございます。

まず最初に数字の話をしていただいて、それから特に孤立からつながり、支え合いへとつなげるための政策的な、基本的な方向性はどんなものかということをご説明をさせていただきます。

皆さん、よく聞いていらっしゃると思うんですけども、高齢化が非常に進んでいるということで、(表1-1-1)のところで、総人口というのは去年と比べまして減ってきており、もう日本は人口減少社会に入っていますが、65歳以上の方というのは増え続けておまして、過去最高の2,901万人ということでございます。

一番左側の総数の下のほうを見ていただきますと、総人口の中で65歳以上の方が何%いらっしゃるかという数字が出ていますけれども、これが一番新しい数字で22.7%ということで、一般的に高齢化率といわれています。これもずっと増え続けておまして。

表1-1-1 高齢化の現状

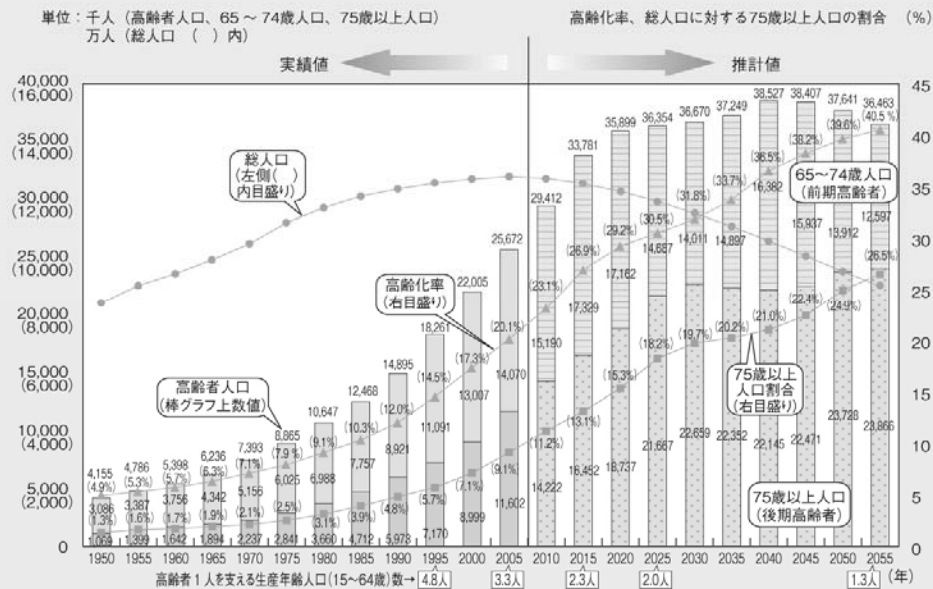
		平成21年10月1日			平成20年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,751	6,213 95.0	6,538	12,769	6,225 (性比)95.1	6,544
	高齢者人口(65歳以上)	2,901	1,240 (性比)74.7	1,661	2,822	1,204 (性比)74.5	1,617
	65~74歳人口(前期高齢者)	1,530	720 (性比)89.0	809	1,500	706 (性比)88.9	794
	75歳以上人口(後期高齢者)	1,371	520 (性比)61.0	852	1,322	499 (性比)60.6	823
	生産年齢人口(15~64歳)	8,149	4,101 (性比)101.3	4,048	8,230	4,141 (性比)101.2	4,090
	年少人口(0~14歳)	1,701	872 (性比)105.1	829	1,718	880 (性比)105.1	837
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口(高齢化率)	22.7	20.0	25.4	22.1	19.3	24.7
	65~74歳人口	12.0	11.6	12.4	11.7	11.3	12.1
	75歳以上人口	10.8	8.4	13.0	10.4	8.0	12.6
	生産年齢人口	63.9	66.0	61.9	64.5	66.5	62.5
	年少人口	13.3	14.0	12.7	13.5	14.1	12.8

資料：総務省「推計人口」(各年10月1日現在)

(注)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

(図1-1-4)をご覧くださいますと、左が実際の数で、右が推計でございませう。高齢化率というのはずっと上昇してございまして、総人口がまず減り出して、2042年には65歳以上の方の人口も減るのでございませうけれども、それでも高齢化率というのはずっと増え続けていくということで、2055年には高齢化率は40.5%ということで、2.5人に1人の方が65歳以上ということでございませう。

図1-1-4 高齢化の推移と将来推計



資料：2005年までは総務省「国勢調査」、2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果